

平成28年度  
第2回東久留米市  
総合教育会議議事録

平成28年7月1日

東久留米市・東久留米市教育委員会

平成28年度第2回東久留米市総合教育会議

平成28年7月1日午後3時00分開会  
東久留米市立第六小学校 会議室

議題 (1) 市立小学校の児童の国語力向上について

---

出席者(6人)

市	長	並木克巳
教	育	長
委	員	直原裕
(教育長職務代理者)		尾関謙一郎
委	員	名取はにわ
委	員	細川雅代
委	員	細田初雄

---

東久留米市教育委員会会議規則第13条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

企画経営室長	佐々木弘治
企画調整課長	長澤孝仁
教育部長	師岡範昭
指導室長	穴戸敏和
教育総務課長	小島信行
学務課長	廣瀬明子
生涯学習課長	市澤信明
図書館長	岡野知子
主幹・統括指導主事	富永大優

---

事務局職員出席者

庶務係長	鳥越富貴
------	------

---

傍聴者 5人

## ◎開会及び開議の宣告

(開会 午後3時00分)

- 並木市長 ただ今より、平成28年度第2回総合教育会議を開催します。本日は、教育長、教育委員の皆さん全員にお集まりいただいています。
- 

## ◎傍聴の許可

- 並木市長 傍聴の方がお見えになっていますので、許可したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

傍聴を許可します。暫時休憩します。

(休憩 午後3時01分)

(傍聴者入室)

(再開 午後3時02分)

休憩を閉じて再開します。ここで傍聴の方にお願ひがあります。傍聴していただくに当たり、お手元にお配りしている「教育委員会傍聴人規則」を準用させていただきますので、ご了承ください。

なお、お配りしている資料については、お要り用の場合はお持ち帰りいただけます。

---

## ◎市立小学校の児童の国語力向上について

- 並木市長 昨年度、教育委員会から、考える力や表現する力のもとになる国語力の向上を図る「国語カステップアップ学習事業」の新規事業の提案がありました。子どもたちが成長し、社会に出たときに何が必要なのかを考えると、健康で元気であることはもちろんですが、前向きに生きることなどさまざまあると思います。しかし、そういうことも、まずは自分の頭できちんと考えられることが重要であると思っていますので、市としましてもそうなるよう大いに期待して予算措置をしたところです。6月議会でも、「国語カステップアップ学習事業」については、議員の方々から質問があり、指導室長から、事業のねらいや内容について説明がありました。多くの市民も期待していると思っています。

そこで、今回の総合教育会議では、「国語力の向上」をテーマとすることにしました。本日はこの会議の前に第5学年の国語の授業を参観し、その後、教員の皆さんの研究協議会も少しの時間ではありますが拝見させていただきました。傍聴の方々には授業を見ておられませんでしたので、まずは事務局から授業の概要を説明してもらいたいと思います。

- 穴戸指導室長 本日の授業は、第5学年の「書き手の意図を考えながら新聞を読もう」という授業でした。資料のA社とB社の記事の写真があるページをご覧ください。「多摩川をさかのぼるアユ」について取り上げた記事を活用した授業でした。

まずは「しぶきを上げる『江戸前アユ』」というA社の記事を、学級全体で確認しました。ここではこれを紹介する文を教師が示して全員で考えた後、B社の記事について、自分の力で紹介文を書いて友達と交流する流れで授業を展開しました。A社の記事を使って、見出し、リード文、写真などに着目しながら書き手の意図をとらえる、という方法をクラス全員で学びました。A社の記事を紹介する文章にまとめる時は、文章の組み立てについても学ぶという学習です。続いて、B社の記事については、A社の記事で学んだことを生かして自分の力

で書き手の意図をとらえ、特に、書く時間をしっかりと確保して紹介文を書いていくことができました。書き手の意図をとらえ、そのことに対して自分の考えを持つということは、今後一層求められる力だと考えています。その点を踏まえ、今日の授業では書き手の意図をとらえるという目的が明確です。そのため、子どもたちも漫然とこの記事を読むだけではなく、どこが事実で、どこが書き手の思いや考えなのかをよく考えていました。指導する教員がこの授業を通して、どんな力を付けていきたいかが明確だったからこそ、子どもたちへの特に個別の指導、一人ひとりに合わせた指導が的確だったと思われまます。また、子どもたちが書き手の意図をとらえるだけではなく、記事を紹介するために自分なりにまとめ、その後、読みながら書くという学習で、よりの確に書き手の意図をとらえることができる授業となっていました。

○並木市長 指導室長から概略の説明をさせていただきました。これより教育委員の皆さんと先ほどの参観を踏まえて意見交換していきたいと思ひます。

今日の授業は新聞記事を題材にして、新聞記者が読み手にどのようなことを伝えたかったのかを考える授業でした。私もですが、教育委員の皆様には、授業を見ながら、子どもたちには多くの情報の中からの的確に必要な情報を得ることや、書き手の意図をとらえてそれに対する自分の考えを持ち、表現していくことが大切であることを考えていただきました。それぞれ委員の感じたこと、思ったことなどご発言いただきたいと思ひます。

○尾関委員 はるか昔ですが新聞記者であった私としましては、こういう題材で子どもたちの国語の能力が高まってくれることは非常にありがたく思ひますし、期待も大であります。二つの記事のいずれも「江戸前アユ」を取り上げていましたが、どういふ情報があるのかを的確にとらえ、それをどのように紹介するかということでした。先ずは、読むという点においても非常に内容のある授業だったと思ひます。方向性として望ましい授業だったと、最初の印象を持ちました。

○名取委員 資料は事前に読んできましたが、実際に授業を参観してみると、この教え方と少し違ふ教え方をしていらっしやいました。ここに書いてあるよりも、もう少し分かりやすいといふか、すごく自然に実力がステップアップするよふな、本当に子どもたちにうまく伝わりやすい良い教え方をしていらしたと思ひます。それは、日ごろから子どもたちに接していることを踏まえ、工夫された素晴らしい指導方法でした。

今の5年生の子どもたちにどういふ話ではありませぬが、私は仕事で新聞記事などを相当読みこんできた経験からしますと、実は、文字に書かれていないこともとても大事なことなのです。何が書かれているのか、何が書かれていないのかをきちんと読みこむことが大事なことなのです。年齢が上がるにつれて、何が書かれていないのかについてもきちんと考える力が出てくるといいなと思ひました。

また、この記事の中にはいろいろな周辺情報があります。例えば、簡単なことだと、「1千万匹のアユは一体どうして出てきたのだろうか」といふことです。恐らくは放流しているのでしょうか、放流といつてもどんな放流だったのか。放流を続けていたのに魚がこれまで上つてこなかったのはなぜか。考えていくと、私もいろいろと疑問が沸いてきます。5年生ですと「公害」のことはまだ知らないと思ひますが、かつて日本には「公害」があったのだといふことも知ってもらったほうが良いと思ひます。将来にはそういふ広がりのある授業ができると良いと思ひながら参観していました。

○細田委員 私は8年間、多摩川から50mも離れていない所で高校生に野球の指導をしてきました。アユも毎年のように見えてきました。毎年増えていまして、名取委員が言われたとおり、海沿い近くで相当数の放流をしているようです。子どもたちにもぜひ見せてあげたいと思いますが、ワニガメなどもいますので十分に注意してほしいと思います。

授業の内容ですが、文字として表された言葉と資料の内容等を関連付けて一定のメッセージを読み取りながら、記事の考えや思いが入った文章など読み分けており、大変良い指導だったと思いました。

○細川委員 久しぶりに、子どもと一緒に考えてという授業を見せてもらいました。内容を把握して、次に何が書いてあるのかを想像できる授業に持っていかれたところがとても素晴らしかったと感じました。子どもたちも日常的にはメールによって、読むことは慣れていると思います。しかし、メールの返信ではない、「書く」ということには慣れていないと、私も含めてですが感じました。「(意識して)書く」ということはとても難しいことだと思います。子どもの中にも、文章をさっと書ける子どももいれば、最初からつまづいてしまう子どももいます。ささっと書くような子は、ノートの文字もとてもきれいでした。文字に慣れるというか、文字を書くことに慣れていってほしいと思います。今日のような、「新聞を読んで感じたことを書く」ということは難しいことです。自分の意見を書くのが難しければ、まずは書き写すことから始めても良いと思います。文を全部書き写す。書くことに慣れていくことが大事だと思いました。クラスによっても結構差があったように感じましたので、全部の先生がアイデアをどんどん出していってほしいと思います。今日の先生は、とてもアイデアが溢れているようでした。

また、今日の教室は広くて、児童数も少なかったからこそできた授業だと思います。教室が児童でいっぱいだと、「前に集まって!」という授業はできないと思うのです。「前に集まって!」ということができる授業、そして、先生と子どもが近づける授業はとても良いと思いました。

なお、多くの子どもたちが手を挙げて発言していました。手を挙げる子どもの指が「1」「2」「3」と別れていましたので、授業が終わった後、先生に聞いてみました。担任の先生とのそれぞれの暗号があるらしく、1回目の発言の場合は「1」とか、反対意見の場合は「3」を出したりするそうです。そのこと一つをとっても、アイデアが溢れている授業に感じました。

○並木市長 子どもたちの指の数は何なのか、私も気になっていました。謎が分かりました。

○尾関委員 細川委員も言われていましたが、この授業は「読むために書く」ということが一つのポイントだったと思います。ただ読むだけですと、本当に分かったのかどうかは分かりません。「読むために書いた」ことは、非常に良かったと思います。しかも、いきなり書けと言っても難しいので、まずはA社の記事を先生がモデルで書いてみて、B社について書きなさいということでした。見出し、リードや本文の内容など、子どもなりに自分の頭の中で整理して書かなければならないわけです。本当の国語力は読むだけではなく、読んで、それを書いて相手に伝えていくことが重要です。その一歩として行われていることでしたので、内容としては非常に良かったと思います。

○名取委員 本市の子どもたちの国語における学力の課題は、主語と述語が分からない子がかなりいるということだと聞いています。それは非常に大事な問題です。小学校でも英語が授

業に取り入れられるとなると、英語と日本語では主語と述語の位置が異なり構文が違ってきますから、日本語がきちんと頭に入っていないと、ぐにやぐにゃの英語になってしまいます。主語と述語のきちんとした構造が思考の重要な根幹になりますので、当然ですが、子どもたちにはまずは日本語で考える力が備わってほしいと思います。日本語で考える力は小学校で学ぶことができると思います。話し言葉だとしばしばそうではない場合があります。

最近はLINEなどの活用であまりきちんと考えなくても書けるのですが、今日見せていただいた授業のように、きちんと文章にして表現するには主語と述語がまずは整っている必要があります。それができれば頭が整理できて、文章が書けるようになると思います。

○細田委員 近所の保護者に今の小学生について聞いてみました。子どもの1週間のスケジュールを追ってみると、学習塾に週2回、水泳、土日にはサッカーや野球と、ほぼ週5日が埋まっているようです。学校の宿題はどうしているのかと聞くと、国語の場合ですが、先生が5回読んできなさいと言ったら、家で、ぱぱっと5回読んで終わり。しかし、塾で算数の宿題が出されたりすると予習や復習もやっているようですが、国語に関しては、話を聞いた中ではおろそかになっているようです。

しかし、今日の授業を見させていただいて、小学生なりに新聞を読む楽しさなどを理解してくれれば、いろいろな事実をもっと知ることができます。もちろん、新聞を読むことによって漢字を学ぶこともできます。先ほどから他の委員も言われていますが、新聞を取り上げた今日の授業は本当に素晴らしいものでした。これからもこういう授業を続けてもらいたいと思います。

○細川委員 先生が最後に、「週末に新聞を持ってきてくれる人」と言うと、3分の1ぐらいの子から手が挙がりました。新聞をとっている家庭はどれくらいあるのかと先生に聞きましたら、あのクラスでは朝刊のみ（スポーツ新聞も含む）が半分ぐらいということでした。

教科書で取り上げられた新聞記事なので教わりながら読み方が分かりますが、小学生ですと、自分で新聞を読もうとしても、挿絵があつたりすると小学生の関心は文字からそっちに行ってしまうし、段落のつながりが難しいと思います。それでも、実物の新聞に触れることはとても重要なのだと思いました。市報も一つの新聞ですので、そういうものからでも新聞というものに慣れていってほしいと思いました。

○尾関委員 非常にありがたいご意見です。私も子どもたちには新聞をぜひ読んでほしいと思います。授業では友達の作文を交換して読んでいましたが、それも良い取り組みだと思います。自分とほかの子どもの意見はどこがどう違うのかを知ることができます。

授業では、ほとんどの子はB社の記事の「多摩川に蘇る」を取り上げていましたが、最後に発表した女の子だけは多摩川だけではなく、「自然全体が蘇る」を取り上げていました。同じ学年の子どもでもいろいろ違った考え方をするのだということが分かったと思います。違う作文を書く子の意見を理解したと思います。

自分の書いたものを相手に読んでもらい、改めてそれを聞くことにより、本当に伝わっているかどうか分かってくるとさらに良いのですが、それに近い方法だと思いました。大学の授業で、私は少人数の学生相手に文章を書かせ、交換して意見を言い合うという取り組みをしていますが、結局、小学校と同じことをやっていたのかと思いました。

しかし、これが国語力の原点なのだと思います。国語の授業だけではなく、ほかの教科についても同様に互いの作品や考え方を交換し合うことにより意見を言い合うことが必要だと

思います。国語でこういうやり方をすると他の教科の学力も伸びてくるという、学びの共通性を見せていただいたと思いました。

- 名取委員 先ほど、日本語で考える力がとても大事だと申しましたが、若干補足させていただきます。私は文部科学省にも出向していたことがありまして、そのときに「発達」についての研究家で、現在は京都大学の教授である正高さんと話をしたことがありました。先生は「バイリンガルはあまり良くないのだ」と言われていました。日本でもバイリンガルに憧れている人はいっぱいいますし、私は「良いのではないですか」とお尋ねしましたら、「発展途上国の貧しいスラム街の子ほどバイリンガルなんです」ということでした。例えば、英語で「ギブミーマネー」「金くれ、金くれ」と言えてしまう。きちんとした教育を受けていないと、母国語で考える力、要するに、考えを構築する力がなくなってしまうのです。それは、アイデンティティーという点から見て非常に問題である。だから、日本の今の小学校教育を受けている子には、日本語できちんと考える力を付けないと大変なことになる、とおっしゃっていました。当時は、英語といっても中学校で学ばよかったですのでそれほど心配しなくても良い状況だったのかもしれませんが、最近は英語が小学校に下りてきています。そうなると、きちんと日本語で考える力を身に付けさせる時間が減ってしまったということになります。それだけに、小学校の先生には、国語の力を子どもたちに付けさせるということは、実は日本人をどうつくるかということでもあり、かなり重い責任を持たされてしまっているのだと思います。

昨年、東久留米市の子どもたちが主語と述語がよく分からない状況にあるという話を聞いて、仰天しました。こんな状況では本当に大変なことになる、一方、英語が入ってきてしまったらますます大変なことになってしまうと思いました。本日、まさに国語力を付けるという大事な授業を見せていただきましたので、このことは再度強調させていただきます。

- 直原教育長 人工知能を研究している方の発言を新聞で読みました。人工知能といっても、今は囲碁の世界チャンピオンを破るほどで、その部分についてはものすごく力がありますが、その方が研究しているのは、東京大学の入試問題を解けるようにするのが目標だそうです。今どういう状態かということ、かなりの受験生よりは点数がとれるそうです。

その先生に言わせると、実は人工知能というのは文章の意味は理解していない。文章を理解していないのに点がとれてしまう。それは何を意味しているかということ、多くの学生は、理解しないで文章を書いているそうです。その人工知能の研究者が言う、これから大事なのは、子どもたちに教科書がちゃんと読めるようになってほしいということです。実は、今は理解していないで読んでいるのだということなのですね。

本市の「国語力ステップアップ学習」の共通の目標は「正しく理解し」ということが出発点になっていますが、先ほど多くの委員がおっしゃいましたとおり、ただ読んでも、実は正しく理解はしていないことがある。第六小学校の授業のように、「正しく理解するためには書くという自分の主体的な行為が入ることによって、書く行為を通じて正しく読めるようになる」と。それがねらいだと思うのですが、人工知能を研究している方の問題提起に、第六小学校の試みはある一つのやり方で答えているのではないかと思います。

第六小学校の目標は、小学校を卒業する時に、自分の意見を、文章を工夫して800字程度で書けるような子どもにするのということで、これから国語力ステップアップ学習を通じて、それを目標していくということです。大変な取り組みだと思いますが大いに期待したい

と思っています。

○尾関委員 月に2回、朝の10分間に作文タイムを実施していると、第六小学校の先生がおっしゃっていました。しかし、毎朝10分間だけでも続けてほしいと思います。一人の子どもに新聞記事の紹介を書かせて発表させるなどの取り組みを続けていけば月に1回、ふた月に1回は全員に回ってきます。そういう積み重ねが大事だと思います。月に2回でも良いかもしれませんが、また、毎朝10分間ずっと国語ばかりやるわけにはいかないかもしれませんが、「国語」というものは前朝10分間取り組んでもいいぐらいの重要なものだと思います。東久留米市の小学校全てが取り組んでいくと、主語と述語が分からない子がいるということはなくなってくるのではないかと思います。

○細田委員 国語の話をすると、どうしても柳田邦男さんの話が頭に浮かんできます。お母さんが妊娠している時、生まれて保育園や幼稚園に通っている時の様子がひと昔前と全く様子が違ってきているそうです。妊娠している時に夫婦のけんかが非常に多いと、生まれてくる子どもは笑顔が少ない。本を読んであげたり、いろいろなことをお腹の赤ちゃんのためにやってあげると、生まれてくる子は非常に笑顔が多くなる。しかし、今の産婦人科や小児科にかかっている若い母親はずっとスマーとフォンをいじっていて、子どもには一言も話しかけたりしていない。以前の小児科は非常ににぎやかで、がやがやうるさいぐらいだったそうです。それが、今は静かで逆に恐ろしいと。そういう状況で育った子どもたちが保育園、幼稚園を経て小学校に上がっていくわけです。学校の先生や私たち教育関係者でもそういう状況は調べておく必要があると感じました。

○直原委員長 この取り組みは中学校でもやらなくてはいけないのですが、まずは小学校で始めました。小学校の段階で基礎的な国語力が付いていないと、それは国語だけではなく、ほかの教科にわたっても理解力に限界が出てきてしまうことがありますので、何としても小学校段階での基礎的国語力を付けるという部分を、全校で取り組んでいきたいと思っています。第六小学校では実際にどうやっているのか、われわれも今日初めて見せていただきました。先生も非常に工夫していて、すらすらできる子もいるし、なかなかそうはいかない子もいるわけですが、その両方に目配りをしながら最低限ここまでは書けるように、そういう努力をしているように思いました。

第六小学校のこの授業は一つの単元のまだ途中の段階で、今日、紹介がありましたように、次回は自分たちで探してきた新しい新聞記事を素材に1時間かけて紹介文を書く。次回はそういう授業をやると先生がおっしゃっていましたが、基本的には今日はパターンを覚えることに主眼があったと思いますが、それからさらに進めていってほしいと思いました。ぜひ、全校が各校なりの取り組みをしていけるよう、教育委員会としてもバックアップしていきたいと思います。

○並木市長 ありがとうございます。皆様からいただいた意見を踏まえ、最後に私の感想を述べさせていただきます。

先ほど冒頭にお話しさせていただきましたが、今年度には「国語力ステップアップ学習事業」の予算措置させていただきました。本日、実際に現場に伺って授業を参観しましたが、率直な感想としては、大変素晴らしいものを見せていただいたと思っています。予算措置して良かったなと感じています。

各委員のご意見の中でも、国語力の大切さについては共通したものがありました。読み、

書き、聞いて話すことにおいても、これは大切な基礎的な要素を秘めていると思っていますし、国語力は物事を考える基礎となるものであり、国語力を向上させていくことは非常に大切なことだと思います。将来、自身のレベルアップを図るためにも、また、人生をより良きものにしていく上でも備えておくべきものだなと感じました。

さて、本日は参観させていただき、学校側のさまざまな努力を感じることもできました。先生方が教え方を大変工夫されていて、生徒が食いつくような姿勢で授業を受けていることも素晴らしいと思いましたし、その後の研修の協議会は時間の関係で途中退席になりましたが、授業について意見交換をされている様子を見て、さらにレベルアップした指導方法が構築されていくのだろうと思いました。そういった意味では、先ほど教育長のお話にもありましたが、これが全校において、全科目においても満遍なく行われてほしいですし、知徳体全てにおいて、子どもが巣立っていく環境づくりに努力していただきたいと思います。

今年度は「国語力ステップアップ学習事業」の取り組みからスタートしましたが、この取り組みの効果についてもすごく期待できるとしています。各現場において取り組みを強化していただきたいと思います。

---

#### ◎閉会の宣告

○並木市長 以上で、平成28年度第2回総合教育会議を終了します。本日はありがとうございました。

(閉会 午後3時43分)

東久留米市総合教育会議運営要綱第7条の規定により、ここに署名する。

平成28年7月1日

市長 並木 克己 (自署)

教育長 直原 裕 (自署)